

団体名	NPO 法人子育て支援グループ amigo
-----	-----------------------

事業計画書

1 事業名称	馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト
2 協働事業の内容及び実施方法	<p>(1)事業の目的</p> <p>オリンピック・パラリンピック開催に伴い「うままちプロジェクト」の取り組みが行われていた馬事公苑界わいにおいて、オリパラ開催後にも持続する住民コミュニティ形成を働きかける。</p> <p>「人と人とのつながり 心の豊かさの再確認」をキーワードに、地域資源開発と並行して、学生から子育て世代、働き盛りからシニア世代までを包摂するようなイベントを開催する。世代や属性を越えた交流会を通じて、仲間づくりを促す。自分たちが暮らすまちへの愛着と共に市民感覚（パブリックマインド）を育み、個人や家庭の暮らしの豊かさの先にある「まちの豊かさ」を考える場を作る。けやき広場でイベントを開くことで、こうした取り組みをより多くの市民に知らせ、参画を働きかける。このコミュニティデザインが子どもの遊びの乏しさや、独居老人の孤立といった既存の地域課題は勿論、コロナ後の変化した社会で、住民が健やかに暮らし、働くための地域コミュニティのあり方を自分たちで見出していくことを目指す。また、発災時には共助ネットワークとしてコミュニティが機能していくことも目的とする。</p>

	<p>(2)事業の内容</p> <p>*実施体制や実施手法を含めて記入すること。</p>	<p>【実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区都市デザイン課の担当職員、NPO 法人子育て支援グループ amigo のコーディネーターを中心に、令和4年度に引き続き、近隣の商店、学生、町会、マンション管理組合、コミュニティ形成に関心のある住民を募り実行委員会形式の会議体メンバーを随時募集する。 ・定期的にミーティングを開催し、まちづくりに関心のある区民や学生のネットワークを強化し、事務局（都市デザイン課、子育て支援グループ amigo）は中間支援としての機能強化を心がける。 ・年4回開催するけやき広場でのイベント「Bajioichi バジイチ」で活躍する地域住民、賑わい創出に協力していただく地域の団体や店舗、法人等の資源開発を進める。 ・町会やまちづくりセンター、社会福祉協議会、区の他部署などの公的な組織への事業説明をし、連携体制を作っていく。 <p>【実施手法】</p> <p>1 情報発信（通信やチラシの発行、HP や SNS の運用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトの目的及びプロジェクトの進捗状況を伝える「bajico 通信」、イベントの開催を告知するチラシを定期的に発行する。作成物はけやき広場で配布するほか、近隣掲示板や施設での掲示、近隣マンション自治会や町会を通じて地域への回覧、近隣の個店や施設への配布協力を依頼する。 ・プロジェクトの HP の運営、公式 LINE、Instagram 等の SNS の活用により、幅広い世代の目に留まる情報発信をする。口コミでの情報発信も積極的に行う。 ・bajico 通信及び SNS でプロジェクトへの参加を随時呼びかけ、関心のある地域住民がいつでも繋がれる窓口を設ける。 <p>2 機運醸成（季節のイベント開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民や店舗、団体や法人が交流するイベント「Bajioichi バジイチ」を開催。 <p>3 調査（地域マップ作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動4年目の振り返りとして、イベント時や SNS でヒアリングを実施し、馬事公苑界わいの「コミュニティ・コネクション・マップ」作成を行う。 <p>4 常設の場との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区立桜丘農業広場の暫定利用地にて、住民同士が日常的に活動できる常設の場と連携する。 <p>5 大学生と共に活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生と定期的なミーティングを繰り返し、地域での活躍の場を共に考える。
	<p>(3)令和5年度 事業完了予定 日</p>	<p>2024年2月29日</p>
<p>3</p>	<p>(1)区の担当課</p>	<p>都市整備政策部都市デザイン課</p>

協働の必要性及び役割分担	(2)協働する意義・必要性	NPO 法人子育て支援グループ amigo は馬事公苑界わいの子育て世代との繋がりを持つ機会が多く、この世代が界わいのコミュニティデザインの鍵の一つだと考えている。子育て世代の数は増える一方だが、都市部における核家族の子育ては、身近な子育てモデルに出会う機会がなく、孤立しがちだ。そうした子育て家族が、長く地域に暮らす機会を設けること、支えられ、支え合う経験をすることで「地域」という感覚を育むことができると考えている。自団体が運営する施設は広さや収容人数も限られており、子育て世代以外への発信力が弱い。また、一つの NPO の働きかけで届けられる声には限界がある。地域のシンボルでもある「けやき広場」の活用に理解を得ること、町会や自治会、大学や企業への発信は、行政の持つ信頼性が大切だと考えている。	
	(3) 役割分担	提案団体	<ul style="list-style-type: none"> ・活動全体の企画・運営 ・関係機関との連携（連絡窓口・打ち合わせ調整など） ・全体のスケジュール管理 ・参加者、出店者対応、コーディネート ・学生メンバーのサポート ・全体会のファシリテーション ・広報活動、情報発信 ・Baji∞ichi 会場運営 ・撮影、記録
		区担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの企画、実施及び集計を行う。 ・けやき広場等の使用に伴い必要となる行政手続き（道路占用許可・道路使用許可・保健所・消防署への届出等）のサポートを行う。 ・事業実施に関して近隣町会や近隣住民との調整を図る。 ・課題解決のための適切な行政の関係部署に対する必要な協力要請及び連携体制の構築を図る。 ・周辺の動き(馬事公苑や上用賀公園等)にあわせ、活動 PR 等を行い、連携できるように調整する。
(4)地域の団体との連携	近隣の大学の研究室、町会や商店街、福祉機関		

4 協働の成果・効果	(1)期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	(団 体) <ul style="list-style-type: none"> ・活動に主体的に参加し、運営側の役割も担える地域住民を発掘することで、住民同士の交流や支援の活発化が期待される。 ・地域住民に、地域の個店の掘り起こしやイベント出店への働きかけを依頼し、生活動線に沿った告知、広報を展開する。 ・けやき広場で定期的にイベントを開催することで、プロジェクトへの関心がある人だけではなく、無関心層のありのままの声を聞くことができる。自分の目的で場に立ち寄っていた人が、思いがけない出会いや家族や友人以外と会話をする機会を生み出す。 ・自分の得意分野を生かしスキルを提供する機会を地域に創ることで、これまで地域に繋がっていなかった住民の活躍の場を創出する。 ・地域住民とのマップ作りを通して、暮らしているまちに、自分の声を反映したり、居場所ができるイメージを持つことを期待する。
		(区担当課) <ul style="list-style-type: none"> ・区独自では思い浮かばないアイデアや団体のネットワークを活用し、地域の多様な世代や職種の方とのつながりや協力を生み出すことができる。 ・親しみやすいイベント等を通じ、地域住民が主体的に自分のまちや地域とのつながりについて、感じ考える機会を創出することができる。 ・イベントごとに住民が回答しやすいアンケートを実施し、参加者の意識やリアルな声について確認し、この活動が近隣住民にどういった効果をもたらしているのかを測定する。
	(2)事業の成果の活用方法、将来の展開	(団 体) <ul style="list-style-type: none"> ・馬事公苑界わいに暮らす様々な世代の住民が運営スタッフになり、人材が循環していくような組織づくりを目指す。 ・活動を通して集めた地域住民の声を区と共有し、次年度以降の事業に活かすものとする。 ・提案型協働事業を通じてコミュニティデザインの実績を作り、持続可能な活動として展開できる仕組みづくりを模索する。
		(区担当課) <ul style="list-style-type: none"> ・役所内の他部署とも連携しながら、お互いの業務や活動がより一層充実する取組みをけやき広場で実施し、事業強化及び地域のつながりを深めていく。 ・区内のコミュニティデザインのモデルケースとして他地域の住民主体のまちづくりにも展開できることを目指す。 ・提案型協働事業終了後も、活動が続くような方法を模索していく。

<p>5 その他</p> <p>* 提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>	<p>NPO 法人子育て支援グループ amigo は、2001 年から「産前産後」に特化し、子育て当事者が助産師、保育士と連携し、地域に根ざした子育てを当事者同士の相互支援活動を世田谷区松原を中心に展開してきた。現在の活動を支えるスタッフ 22 名のうち 7 割が元サービス利用者で、支援の受け手が支援者に循環するスタイルを特徴としている。</p> <p>2018 年から、馬事公苑そばに二つ目の拠点を構えたことから、馬事公苑界わいの住民や都市デザイン課「うままちプロジェクト」とも繋がりが生まれた。これまでの活動の中で、エリアのポテンシャルの高さを感じる一方で、住民の主体性を引き出しながらコミュニティデザインを展開することに難しさを感じている。プロジェクトの継続を望む声が多数であることから、コミュニティワークの経験に基づいたファシリテーションや、活動を軌道に乗せるための枠組みのより一層の必要を感じ、当団体が今回の協働事業の応募に至った経緯である。</p> <p>本事業の「まちづくり」の取り組みがあることで、自団体に展開しているテーマ型の活動への参加者（乳幼児子育て家庭・病気や障害のある子どもと家族）がまちに出るきっかけを生み出すことができる。</p>
---	---

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

<p>(1)昨年度の協働事業の効果・実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続することで少しずつ認知が広がり、担い手となる地域住民が増えたことで、これまでよりも事務局としての機能や役割が明確になった。 ・「メンバー登録フォーム」を作成し、常時アクセス可能な体制を整備したところ、SNS 他のツールから地元住民のアクセシビリティが向上した。 ・区内他部署との関係構築ができ、ステークホルダーとしての参画だけでなく、関係者が一個人としてもイベントへの参加を楽しみ、参画する姿勢に事業の本質への理解を感じることができた。 ・継続的な活動への一歩として「Bajicoichi 出店規約」を整備し、出店希望の住民や法人、商店主など、活動趣旨と照らし合わせながら出店調整の面談を重ねた。 ・地域の個店の掘り起こしやイベント出店への働きかけを依頼したことで、イベント終了後も継続的に bajico で何ができるかを事務局メンバーと熱心に打ち合わせができる関係構築ができた。 ・本事業を知った区内他部署からの声かけで、区立桜丘農業広場の暫定利用の公募の機会に恵まれた。これまでの活動はイベント中心になりがちだったが、メンバー同士が日常的に活動できる常設の場が出来た。
<p>(2)昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回のイベント時に、来場者と一緒に馬事公苑界わいの地域マップ作成を行う。地域の特徴や魅力を再発見することによって、コミュニティを強化することができる。 ・けやき広場以外の場所での定期的なイベントや交流の場を設ける。地域の団体や個店とコミュニケーションを取り、連携していく。 ・区立桜丘農業広場の暫定利用者となったことで、住民がより日常的に活動する機会が増え、世代や属性を越えた交流が生まれている。メンバーが収穫した農作物をけやき広場で販売するなど、相補的に作用していく可能性がある。 ・5年間閉鎖していた馬事公苑が再開することや、界わいの地域開発の計画にあたり、地域コミュニティ再興の仕掛けを考えている。けやき広場に限らず、地域の変化に合わせて拡大を検討する。
<p>(3)協働事業を継続する理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にはまだ掘り起こしきれていないニーズやアイデアがあることと、住民の活動参加への不慣れ感や遠慮があるので、活動に主体的に参加し、運営側の役割も担える人材を発掘したい。 ・かねてより課題視されていた地域における「孤立・孤独」はコロナ禍を経て深刻化し、馬事公苑界わいでも実際に事件となる事例が報道された。本事業の中心となる馬事公苑前「けやき広場」においても多くの住民が訪れそれぞれに楽しむ姿があるものの、住民同士のつながりを生む機会は見られず、災害時も見据えた「つよい地域コミュニティ」に向け地域住民が主体となって取り組む「まちづくり」の必要性を感じている。

団体名	NPO 法人子育て支援グループ amigo
-----	-----------------------

事業計画書の2

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
6月4日	全体ミーティング 事務局ミーティング Bajicoichi ① 全体ミーティング 事務局ミーティング
7月15日	Bajicoichi ②夕市 全体ミーティング 事務局ミーティング
10月9日	Bajicoichi ③せたがや bajico シャルゾン 全体ミーティング 事務局ミーティング
12月22日	Bajicoichi ④キャンドルナイト 全体ミーティング 事務局ミーティング

団体名	NPO 法人子育て支援グループ amigo
-----	-----------------------

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額（円）	積算内訳
補助金	500000	
シャルソン参加費	70000	1,000×70人
出店参加費	10000	
合計	580,000	

【支出】

費目・内容		金額（円）		積算内訳
		事業予算額	うち補助金申請額	
人件費	コーディネーター	144,000	144,000	@1,200×12H×10ヶ月 @1,5000×4回 @5,000×3人×4回 @1000×20人
	運営スタッフ	60,000	60,000	
	イベントスタッフ	60,000	60,000	
	サポートメンバー	20,000	20,000	
	[小計]	284,000	284,000	
報償費	デザイナー	10,000	10,000	
	ワークショップ講師料	30,000	30,000	
	カメラマン	60000	20020	
	[小計]	100,000	60,020	
消耗品・備品費	発電機ガソリン代	1200	1200	
	ガソリン携行缶	4,100	4,100	
	オイルポンプ	1200	1200	
	ハレパネ	5000	5000	
	ワークショップ材料費	30000	30000	
	テント	15000	15000	

	[小 計]	56,500	56,500	
複写・印刷費	Tシャツ印刷費	82000	82000	820×100 枚
	チラシ印刷費	10000	10000	
	[小 計]	92,000	92,000	
郵送・広告・保険料	イベント保険	6600	6600	1650×4 回
	[小 計]	6600	6600	
使用料・賃借料				
	[小 計]			
交通費				
	[小 計]			
その他	振り込み手数料	880	880	
	[小 計]	880	880	
合計		539,980	500,000	

92,000

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費（団体等の日常運営の人員費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等）は対象外です。

団体の概要

団体名	NPO 法人子育て支援グループ amigo			
所在地	東京都世田谷区松原 4-17-15		電話番号	
			FAX	
代表者氏名	石山恭子		役職	理事長
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏名	壬生真理子	役職	副理事
	住所			
	電話番号			
	FAX			
	Eメール			
設立年月 (活動開始年月)	2001年7月 (特定非営利活動法人設立：2014年5月)			
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	役員7名/社員22名/会員15名			
主な活動分野	<p>地域に根ざした産前・産後・乳幼児子育て支援事業 “一緒に楽しく子育てしようよ!”を合言葉に、生まれてくる子どもたちとその親や地域の温かい人間関係の中で支えられ、健やかに成長していくことができるよう、助産師や保育士と連携しながら、子育て中の親たちの相互支援による出産・育児支援を行っています。近年は病気や障害のある子どもと家族の場所づくりや女性の創業支援サポート等にも取り組んでいる。</p>			

<p>主な活動実績</p> <p>*行政との協働の実績を含む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区補助事業「おでかけひろば@あみーご・ほっとステイ」 (世田谷区松原・2008.9月～) ・世田谷区委託事業「利用者支援事業 世田谷区地域子育て支援コーディネーター」(2015.10月～) ・世田谷区補助事業「おでかけひろば ULALA・ワークスペースひろば型」 (世田谷区桜・2018.4月～) ・世田谷区主催「産前産後のセルフケア講座」企画・講師派遣(2006.10月～) ・病気や障害、発達特性のある子どもと家族のための居場所交流事業「arTeaTreaT(アートイートリート)」 (2018.10月～) 公益財団法人東京都福祉保健局「子供が輝く東京・応援事業」 ・日本サードセクター経営者協会「女性のための創業スクール」協力(2018年～) ・区立桜丘農業公園、暫定利用期間管理運営事業者(2022.10月～) ・産前産後・親子支援講座多数
<p>団体のホームページ</p>	<p>https://kosodate-amigo.com</p>

選定委員からの意見

事業名：馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト

- 単一的ではなくイベントの趣向を変え、様々な団体や住民の参画を得ながら活動を継続していることが評価できる。さらに、これまでの活動の経験から、「この地域だからこそ」と言う事がうまく成果として見えてくることに期待する。
- 区担当課においては、目的に照らし合わせてこの事業を通じてどのような効果があったのか明確にしていく段階に入っている。この事業をこの先にも継続していけるよう協働の在り方を提案団体としっかり確認し事業実施に当たられたい。
- 提案団体においては、継続事業として最終の4年目となることから、来年度以降どのように継続していくのか、その具体的な計画やビジョンを所管課と確認し最後に示していただけるよう期待する。